



KANAZAWA TOIYA ART FAIR 2013

活動ドキュメント



主催 協同組合金沢問屋センター 金沢美術工芸大学

スタッフ

金沢美術工芸大学 視覚デザイン専攻 実習助手

金沢美術工芸大学 大学院修士課程 1年 彫刻 彫刻コース

金沢美術工芸大学 大学院修士課程 1年 絵画 油画コース

金沢美術工芸大学 大学院修士課程 1年 絵画 日本画コース

金沢美術工芸大学 学部 3年 油画専攻 楓 大海

金沢美術工芸大学 学部 3年 油画専攻 新谷 健太

金沢美術工芸大学 学部 3年 油画専攻 須山 千尋

金沢美術工芸大学 学部 3年 油画専攻 新山 さゆり

金沢美術工芸大学 学部 2年 日本画専攻 山中 亜衣

土方 大

遠藤 惇也

中川 暁文

山田 春歌

協力 真鍋研究室、坂本研究室、中瀬研究室、よしだ研究室(金沢美術工芸大学)

助成 平成25年度 問屋町活性化活動支援事業

平成25年度 金沢美術工芸大学特別研究

同展活動ドキュメント

編集 上田陽子(金沢アートグミ)

撮影 池田ひらく

発行 2014年3月31日

金沢問屋アートフェア実行委員会

10.19 [土]

10:00-18:00
アートフェア
14:00-16:00
ワークショップ部
ちぎゅう
ワークショップ
18:00-19:30
小山田徹氏
講演会

10.20 [日]

10:00-18:00
アートフェア

10.25 [金]

12:00-18:00
アートフェア
18:00-19:30
芹沢高志氏
講演会

10.26 [土]

10:00-18:00
アートフェア
14:00-16:00
四井雄大
陶芸ワークショップ

10.27 [日]

10:00-18:00
アートフェア
14:00-16:00
四井雄大
陶芸ワークショップ
18:00-20:00
クローズング
パーティー

10.19-27

平日 10:00-17:00 土日 10:00-15:00
北陸銀行旧問屋町支店での展覧会



2010年5月に金沢美術工芸大学と協同組合金沢問屋センターは「金沢市問屋町の街づくりに関する協定」を締結し、問屋まちスタジオを開設しました。

問屋まちスタジオは、金沢美術工芸大学の卒業生・修了生の制作スタジオとして活用されていて、アート志向する若者達が入り出すことで街に刺激が与えられ、逆に若者達にとっては現実の厳しい経済活動の中で揉まれる社会体験ができており、プロ意識を持ったアーティストを育成する環境となっています。今回の「金沢問屋アートフェア 2013」では、この問屋まちスタジオを中心に、作品を販売するアートフェアや講演会、ワークショップが行われ、さらに北陸銀行旧問屋町支店の建築空間を取り込んだ作品制作が行われました。

「金沢問屋アートフェア2013」は、問屋町の企業と金沢美術工芸大学のコラボレーションによってアートやデザインによる新たな「モノやコト」を創造していくアートプロジェクトです。この「金沢問屋アートフェア」を定期的で開催し、問屋町にアートが日常化することで街のイメージが向上し、ここで働く人々のES度（従業員満足度）が向上することも期待されます。また、これらの活動を通じて問屋まちスタジオは、地域の方々との交流の場となっていきます。

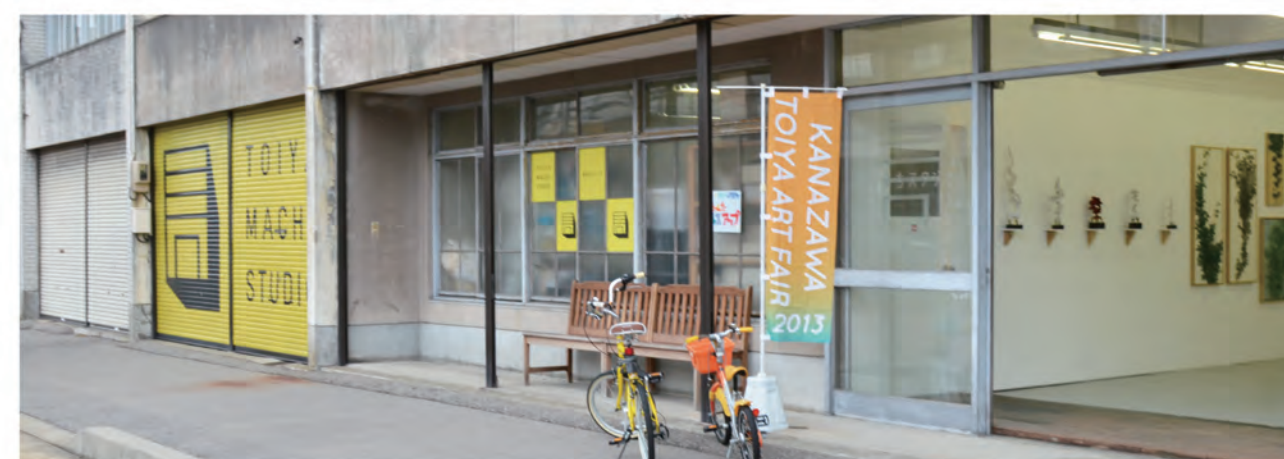
これからアジアが世界経済の中心となっていく状況の中で、「金沢問屋アートフェア」を金沢から発信して、アートと連動した街づくりと人づくりに共に貢献できることをめざしています。

協同組合金沢問屋センター 理事長 伊藤淳蔵
金沢美術工芸大学 教授 真鍋淳朗



ART FAIR

金沢美大の学生・卒業生の絵画、彫刻、工芸作品が展示、販売



今回のアートフェアは金沢美術工芸大学の授業としてのイベントであったということを先に明記しておきたい。授業を履修している学生たちが主体となり作品を展示から販売までを自分たちの手で行う過程で、販売だけでなく別会場での展覧会、ワークショップ、講演会などのイベントを広げて行った彼らの自主性を促し補強するのが、今回ディレクションとして参加した私の役割であった。

めでたく今回のアートフェアは大成功と言っても良い程の売り上げであった。モノと情報が氾濫する現代では販売店に行くまでもなくインターネット上で欲しいものを購入する事も一般化してきている。けれど美術作品の販売方法は展示会場で見えて購入するものが大半である。それは会場に赴き体感する事で得られる情報量が画面上で見るとの比較ではないからだ。

美術作品はそれなりに高価であり、気軽に買い物をするような感覚で購入できるようなものでも無い。同価格の対価で手に入る嗜好品は世の中に無数にある中で作品を購入する事、してもらう事はこういった事なのかを今回のアートフェアを通して学生たちが考えて学び体現する場になったのは喜ばしい事であった。今回の成功や反省を生かして次年度の企画に期待である。

土方大



赤穂 進

1990年 北海道生まれ
現在 金沢美術工芸大学
美術工芸学部美術科
4年 彫刻専攻 在籍



菊谷 達史

1989年 北海道生まれ
2013年 金沢美術工芸
大学 大学院修士課程
絵画専攻 修了



杉本 憲相

1991年 三重県生まれ
現在 金沢美術工芸大学
美術工芸学部美術科
4年 日本画専攻 在籍



田辺 紗友里

1989年 広島県生まれ
現在 金沢美術工芸大学
大学院修士課程 絵画
専攻 在籍



堀 至以

1988年 愛知県生まれ
現在 金沢美術工芸大学
大学院修士課程 絵画
専攻 在籍



阿部 乳房

1982年 新潟県生まれ
2007年 金沢美術工芸
大学彫刻専攻 卒業



佐合 道子

1984年 三重県生まれ
現在 金沢美術工芸大学
工芸研究科博士後期課
程 在籍



須山 千尋

1982年 京都府生まれ
現在 金沢美術工芸大学
美術工芸学部美術科
3年 油画専攻 在籍



中川 暁文

1988年 三重県生まれ
現在 金沢美術工芸大学
大学院修士課程 絵画専
攻 在籍



土方 大

1989年 愛知県生まれ
2011年 金沢美術工芸
大学彫刻専攻 卒業



稲葉 星舟

1992年 福岡県生まれ
現在 金沢美術工芸大学
美術工芸学部美術科
4年 日本画専攻 在籍



佐直 麻里子

1987年 北海道生まれ
2013年 金沢美術工芸
大学 大学院修士課程
絵画専攻 修了



高岡 暁

1987年 奈良県生まれ
2012年 金沢美術工芸
大学 大学院修士課程
絵画専攻 修了



中川 一樹

1988年 滋賀県生まれ
現在 金沢美術工芸大学
大学院修士課程 絵画専
攻 在籍



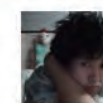
松本 慎吾

1991年 石川県生まれ
現在 金沢美術工芸大学
美術工芸学部美術科
4年 彫刻専攻 在籍



楓 大海

1991年 岐阜県生まれ
現在 金沢美術工芸大学
美術工芸学部美術科
3年 油画専攻 在籍



四井 雄大

1987年 岐阜県生まれ
2010年 金沢美術工芸
大学工芸科 卒業



巽 静香

1990年 石川県生まれ
現在 金沢美術工芸大学
美術工芸学部美術科
3年 日本画専攻 在籍



新山 さゆり

1992年 鹿児島県生まれ
現在 金沢美術工芸大学
美術工芸学部美術科
3年 油画専攻 在籍



山田 春歌

1990年 愛知県生まれ
現在 金沢美術工芸大学
大学院修士課程 絵画
専攻 在籍



柄澤 健介

1987年 愛知県生まれ
現在 金沢美術工芸大学
彫刻専攻 博士後期課
程 在籍



新谷 健太

1981年 北海道生まれ
現在 金沢美術工芸大学
美術工芸学部美術科
3年 油画専攻 在籍



辰巳 昌子

1980年 石川県生まれ
現在 金沢美術工芸大学
美術工芸学部美術科
4年 日本画専攻 在籍



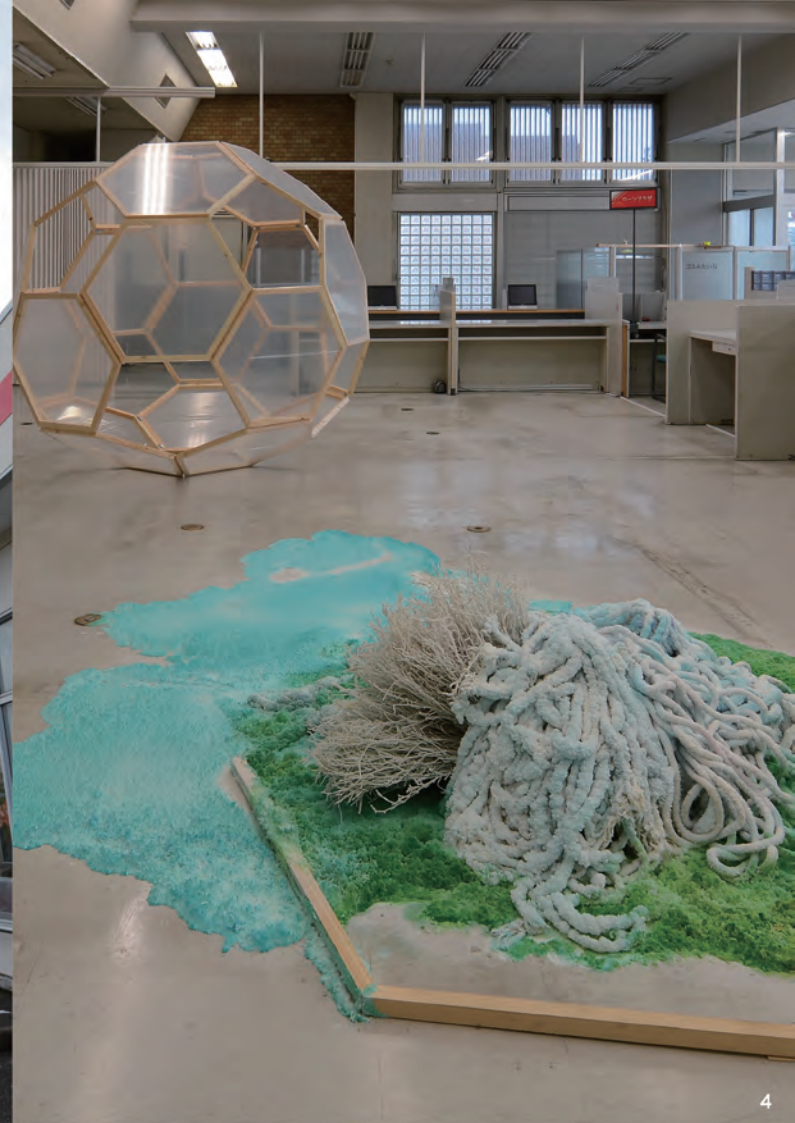
原田 昌典

1987年 岐阜県生まれ
2013年 金沢美術工
芸大学大学院美術工芸
研究科 彫刻専攻 修了



山中 亜衣

1982年 滋賀県生まれ
現在 金沢美術工芸大学
美術工芸学部美術科
2年 日本画専攻 在籍



1 | 柄澤健介[sprout]2013年 木、鉄、パラフィン 2 | 井上大輔[untitled]2013年 アルミバルーン、工場扇 3 | 吉田一誠 & A.dankan
[Lures encasenenGHAB signpost]2013年 デジタルプリント・サインポスト 4 | 土方大 典[Fullerene]2013年 ビニール・木材/手前 [cluster]
2013年 結晶、木材 5 | 遠藤惇也[untitled]2013年 ペット(ウーパールーパー)、映像インスタレーション

EXHIBITION

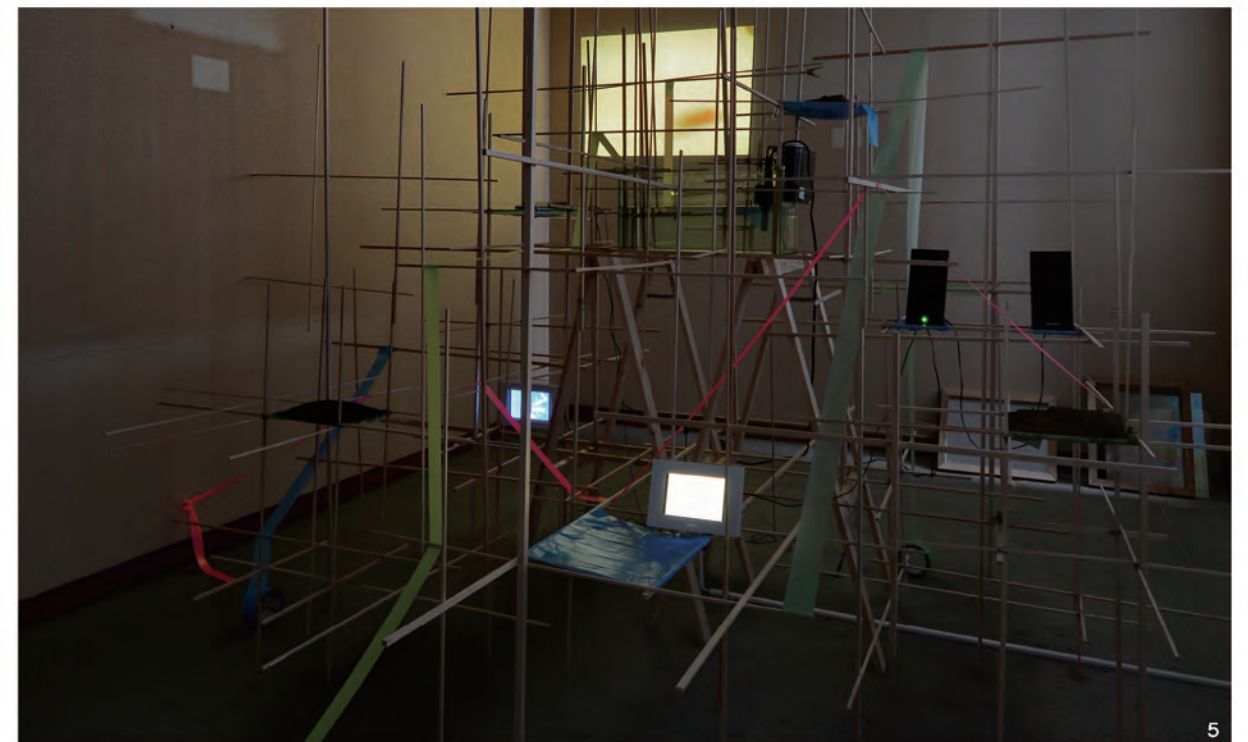
trade parade -等価交換の条件-

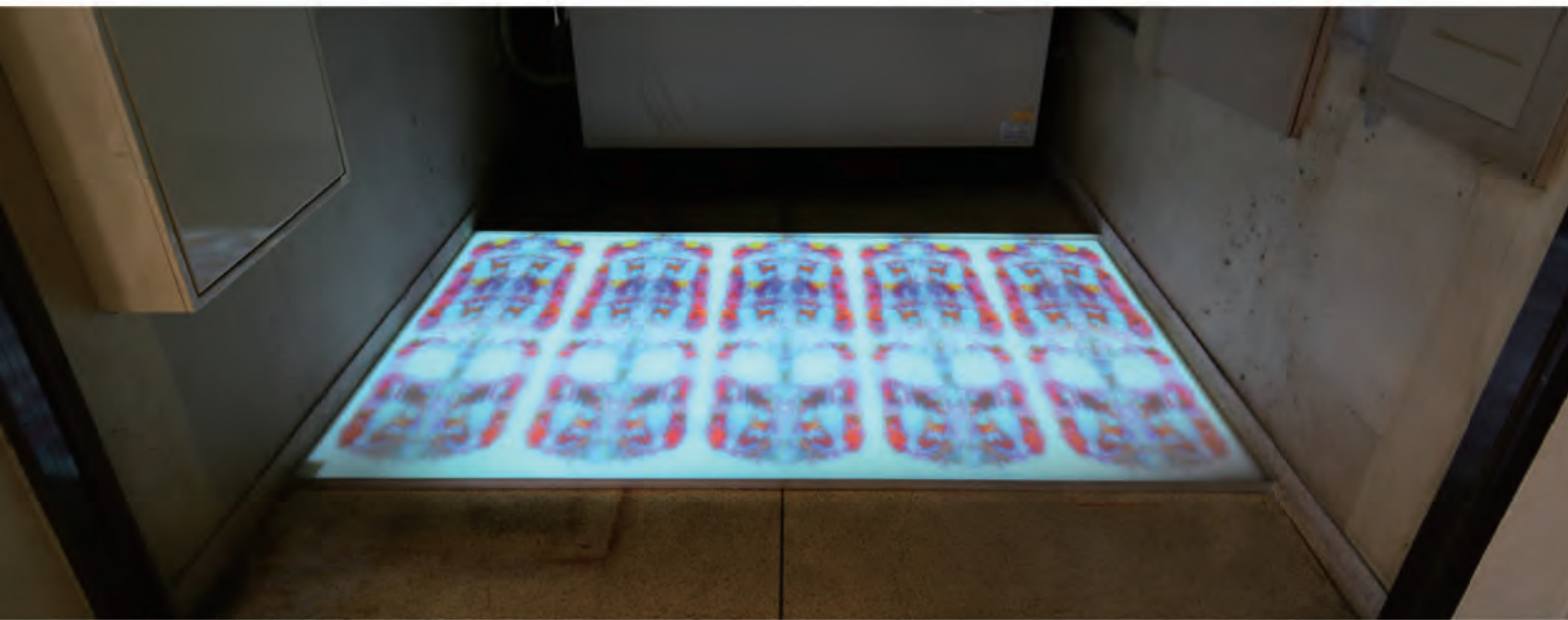
この展覧会は金沢問屋アートフェア2013の一展示企画としての展覧会であり、アートフェアとはアート作品の売買が行われる場である。以上の事を自覚した上で、この一展示企画が引き受けるのであろう部分を考えて、母体となるアートフェアで行われる「アート作品の売買」について、まずは同じイベントの内部からそういった行為についての思考を促す場を作り、自己批評的な立場を確保するというのが、企画者としてこのグループ展が為すべき事だと考えた。

また、展覧会の会場となった北陸銀行問屋町支店跡地では、ほんの数年前までは、実際の銀行として問屋町という多種多様な業者が集まっている町の流通の重要な一部を担う機能を発揮していた場所でもあり、様々な物の価値の中間地点に位置していた場所でもある。こういったある種の制約にも似た条件の中、参加したアーティスト達はそれぞれのスタイルを持って、いまは銀行ではなくなった場所との関係を作り上げて行く、それはある意味でノスタルジックにかつての賑わいを掘り起こすような作業なのかもしれないが、そこに何らかの今までとは異なった価値感を発見し、「かつて銀行だった場所」に新たな交換の条件を発見できる様な展覧会になればと考えこの展覧会を企画するに至った。

価値が様々に変化していく現代において、その変化に流される事なく、自らが見出す価値に対して向き合う事への示唆になっていれば幸いに思う。

遠藤惇也





山内祥太「波動する」2013年 水面に対してビデオプロジェクション



今西勇太「ゴミみたいなオブジェを川に放流する」2013年 ビデオ・ゴミ・オブジェ



吉田一誠 & A.darkan「Bis fechen davener BHAB card」2013年 デジタルプリント



井上大輔

1980年 兵庫県生まれ
2013年 クマグスク 主宰
[主な展示]
2012年 「New Generation Exhibition」 福小美術館(岐阜)
2011年 「Light in the Dark」 金沢アートグミ(金沢)
2010年 「Toyota Art Competition 2010」 豊田市美術館(愛知)



今西勇太

1991年 大阪府生まれ
2013年 金沢美術工芸大学美術工芸学部彫刻専攻 入学
現在 同大学在籍 「芸者 ge-syuku」を拠点に活動中
[主な展示]
2013年 個展「Auto Fiction」 芸者 ge-syuku(金沢)



遠藤惇也

1989年 神奈川県生まれ
2013年 金沢美術工芸大学美術工芸学部彫刻専攻 卒業
現在 金沢美術工芸大学大学院美術工芸研究科彫刻専攻修士
課程 在籍
[主な展示]
2013年 「金沢彫刻祭」 金沢市民芸術村(金沢)



柄澤健介

1987年 愛知県生まれ
2013年 金沢美術工芸大学大学院美術工芸研究科
博士前期課程 在籍
[主な展示]
2013年 「アートワードトーキョー2013」
行幸地下ギャラリー(東京)
2012年 個展「変わらぬ地平」 Take Ninagawa(東京)



アレスデール・ダンカン

1971年 ロンドン生まれ
[主な展示]
2013年 「ヒア・アンド・アムウェア・エルス」ArtLacuna, London
「サインズ・フォー・ザ・フューチャー」 MOCA, London



土方大

1989年 愛知県生まれ
現在 岡屋まちスタジオで活動中
[主な展示]
2013年 個展「Fading in」 遊工房アートスペース(東京)
2012年 「KIND OF PASSAGE」 金沢アートグミ(金沢)
2011年 「TRAILER CAMP 波動するか」 岡屋まちスタジオ(金沢)



吉田一誠

1978年 石川県生まれ
[主な展示]
2012年 「oterart」 寺子屋の会(金沢)
2010年 「アーティスト・イン・レジデンス山代温泉」
ギャラリーパノニカ(加賀)



山内祥太

1992年 岐阜県生まれ
現在 金沢美術工芸大学美術工芸学部彫刻専攻4年 在籍
[主な展示]
2013年 TECHNE 映像の教室web掲載
「金沢彫刻祭」 金沢市民芸術村(金沢)
2012年 「神道絵トリエンナーレ」旧富山市小羽小学校校舎(富山)



LECTURE

小山田 徹氏 講演会

日時:10月19日(土)
18:00~19:30
参加人数:23人
パネリスト:
土方 大、井上 大輔、
遠藤 惇也

今回の展示会のオープニングイベントとして行われた小山田氏の講演会、タイトルは「共有空間における『灯火』」。自身の活動である「焚き火プロジェクト」を中心に話しを進め4人のパネリストと共に共有空間について議論を進めた。

話題の中心は問屋町と問屋まちスタジオの関係、金沢とアートとの関係について。京都で活動を行っている小山田氏から見た客観的な意見を仰ぎながら、土方氏を中心に話しは進められた。京都にはアーティストが制作活動を行うスタジオが多数点在し、そのスタジオ間の結びつきからお互いの活動を支援する仕組みがあるという小山田氏の意見から、金沢はスタジオが少なく、金沢での活動が継続しづらい状況下にあると土方氏は金沢のアートの状況を説明。問屋町の企画も頻繁に継続的に行いづらく、町の方々への理解や認識もされづらいと語る。井上氏は、持続可能な社会構造を作るためには小山田氏の「焚き火プロジェクト」のように、各地で小さな火が燃え上がり、その火をお互いに支援したり刺激したりしながら大きな火を作っていくことが重要であると金沢のアート活動を行う団体への警笛も含めながら意見を述べた。そして傍聴席側にいた金沢市内で運営する他のスタジオ「Kapo」の伊藤氏、「芸宿」の今西氏の意見を求め、アーティスト自身も複雑化するアートシーンにおいて、自ら運営することの重要性を理解し、共有空間の可能性を若手作家としての切り口から意見を述べ講演会は幕を閉じた。

その後すぐ行われた懇親会では、鍋を囲みながら参加者とともに小山田氏とお話しをした。「この鍋を囲むように小さな火にみんなが集まり情報を共有する空間が僕は大切なのだと思う」とこの会を締めくくった。



問屋まちスタジオで行われた芹沢高志氏のディスカッション形式の講演会、タイトルは「地域における『術』」。前日に行われた金沢美大での講演会「地域における『芸』」と合わせて、芸術が可能な、その環境や土地性へのアプローチについて講演していただいた。

芹沢氏の持ち出す話題に、クマガスク(小豆島にある滞在型アートスペース)を運営する井上氏が巧みに話題を転換させ多方面へ話しの広がりを見せた今回のディスカッション。その最大の論点は「芸術の必要性」。井上氏がエドガー・ワント著「芸術と狂気」を引用し、ダヴィンチの時代は生きる上で芸術というものが必要不可欠であり、生活と密接に関わっていたと説明。芹沢氏は自身の活動であるP3でのサラエボサバイバルガイドの話しを用い、極限な環境下においても精神的サバイバルとして自己表現欲があり、食事を摂るのと同様に芸術活動は生きていく上で必要であると、井上氏の意見を擁護。土方氏が問屋まちスタジオでの活動におけるリアルな意見を交え、話しはアートとデザインについての議論に至る。二つの領域をサイエンス、テクノロジーに置き換え、想像力を社会に落とし込むためにアーティストに求められる社会性を喚起した。最後はその領域の中間的な位置にある工芸について、彫刻を専攻する遠藤氏の考えを契機に、その特徴を金沢という土地と絡めて議論し今回の講演会は幕を閉じた。問屋町の企業や京都からの学生も傍聴していた今回の講演会は、芹沢氏という知識人の存在によって各々の立場から地域性と芸術を考え直すきっかけになったのではないかなと思う。

今回のディスカッションの主な流れは、芹沢氏が事務局長をつとめるAAF(アサヒアートフェスティバル)について土方氏と意見交換をし、そこから4人のパネリストと共に地域へのアプローチについて議論。さらにアートとデザインについての議論にまで話しは広がり、最後は金沢の特徴である工芸について言及し幕をとじた。



LECTURE

芹沢 高志氏 講演会

日時:10月25日(金)
18:00~19:30
参加人数:28人
パネリスト:
土方 大、井上 大輔、
遠藤 惇也





自分だけの服をつくろう！
ワークショップ部 ちきゅう

10.19 [土]

今回この問屋町でのアートフェアにおいて、様々な種類の布、及びそれに類する素材を使用し、自分のオリジナルの服を制作するというワークショップをやらせていただきました。このワークショップにおける一番の目的は、様々な異なる肌触りの布に触れてもらうことでした。それによって触覚を刺激し、今着ている服との違いといった近くの発見から、次に身の回りの物はどんな感じなのだろうと、周囲に興味が移っていくきっかけとすることが出来ると考えたからです。このように、普段あまり意識しない触覚を意識させ、改めて自分の

まわりの世界を違う形で認識してもらうことで、子どもたちの感性を養う一環となればと思ひ、このワークショップを行いました。参加してくれた子どもたちやその父兄の方の感想を聞くと、これらの考えが少しは伝わったように感じます。作っている最中にも、小学校低学年くらいの子が「やわらかい」「かたい」「ツルツルしている」など、とても楽しそうに布を触りながら教えてくれました。しかし、布を使ったワークショップは今回が初めてで、こうすればもっと楽しめて、なおかつ自分たちの考えが伝わったのではないかとこの反省点がいくつも出てきました。これを生かして

より良いワークショップを提供していきたいと思っています。
今回ワークショップを依頼していただいたアートフェア実行委員の皆様、実際の作品としては関わること出来ませんでしたが、このような形で携われて幸いです。ありがとうございました。また参加していただいた問屋町の方々も非常に良い経験が出来まして私達ちきゅう部も嬉しく思います。この場を借りてお礼をさせていただきます。ありがとうございます。

WORKSHOP

10.26-27 [土・日]

四井雄大の陶芸教室
「あのひとにあげる、器とか。」

「あのひとにあげる、器とか。」とは何を思った企画だったのか？
今回のアートフェアにあわせて、問屋まちを訪れる方々を対象とした陶芸教室型ワークショップを企画、開講させていただきました。概ね好評でありました。まず、陶芸というのはザ・楽しい体験のようです。ばくも楽しかったですし。
去る2012年夏にも問屋まちスタジオにて同様なワークショップを行ったのですが、その第二弾です。現スタジオメンバーであり陶芸制作が専門の四井雄大が講師となり、制作についてのおしゃべり

などをしながら、ひとつ陶芸という手段を使ってシンプルなものづくりを体験してもらう。またメインのアートイベントと併設することで、参加者には見る側としての体験だけでなく、未熟ながらもかながえながら手を動かすばかりの制作の裏側を自ら体験し、問屋まちスタジオへの理解や展示会全体の集客や満足度が上がる事も期待していました。
今回のワークショップの目的は、ひとりひとりが「あのひとにあげる器などを制作すること」です。まず参加者のほとんどは陶芸に慣れていない初心者なので、制作というより土をどう触ればいいのかと「手が悩んだ

体験”で終わってしまいます。それはそれでいいのですが、またその体験の結果、あんがい簡単に陶の機能を備え器の条件を満たした「もの」がいやでも手元に残ってしまうのが陶芸だったりします。この場合初心者が作ったものは無自覚な「もの（という結果）」でしかありません。しかし今回は、そのものの役割を作る段階で考えることになにかしらの「もの（価値）」へ導こうと手を動かす、いわば作家がしがちな“作品制作の体験”をめざしました。







赤穂 進 「意自然の如く」
2013年 木



浅野 由大 「little planet」
2013年 銀箔、墨、胡粉



阿部 乳房 「オブジェクト気化生物[赤い椅子]」
2013年 木彫に着色



阿部 乳房 「オブジェクト気化生物[SS]」
2013年 木彫に着色



佐合 道子 「花祥」
2012年 磁土



佐合 道子 「実祥」
2012年 磁土



佐合 道子 「冠」
2013年 磁土



佐合 道子 「進蝕」
2010年 磁土



阿部 乳房 「オブジェクト気化生物[L]」
2013年 木彫に着色



阿部 乳房 「オブジェクト気化生物[L]」
2013年 木彫に着色



阿部 乳房 「オブジェクト気化生物[M]」
2013年 木彫に着色



稲葉 星舟 「test pattern」
2013年 ミクストメディア



佐直 麻里子 「動」
2011年 パネル・高知麻紙・岩絵具・墨



佐直 麻里子 「流」
2011年 高知麻紙、墨、岩絵具



佐直 麻里子 「水の壁」
2012年 高知麻紙、岩絵具、水干絵具、鉛筆



佐直 麻里子 「緑列」
2013年 シナベニヤ、岩絵具、水干絵具



稲葉 星舟 「test pattern」
2013年 ミクストメディア



稲葉 星舟 「test pattern」
2013年 ミクストメディア



稲葉 星舟 「test pattern」
2013年 ミクストメディア



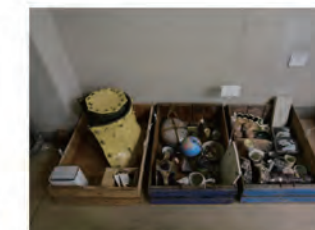
稲葉 星舟 「test pattern」
2013年 ミクストメディア



四井 雄大 「割る貯金箱シリーズ」
2013年 陶、他



四井 雄大 「2013 秋の新作コレクション」
2013年 陶、他



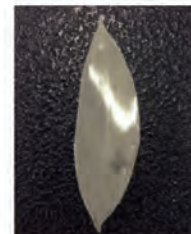
四井 雄大 「古道具市」
2013年 陶、他



新谷 健太 「Rolls Rose」
2013年 パネル、油彩



楓 大海 「Collection leaf "midday"」
2013年 エポキシ樹脂



楓 大海 「Collection leaf "midnight"」
2013年 エポキシ樹脂



柄澤 健介 「peaks」
2013年 木・パラフィン



柄澤 健介 「peaks」
2013年 木・パラフィン



新谷 健太 「Rainy Lilly」
2013年 キャンバス、油彩



新谷 健太 「Blue Bloom」
2013年 パネル、油彩



新谷 健太 「Autumn come from」
2013年 パネル、油彩



新谷 健太 「Happy」
2013年 パネル、油彩



柄澤 健介 「深淵まで」
2013年 木・パラフィン



柄澤 健介 「深淵まで」
2013年 木・パラフィン



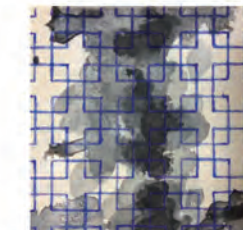
菊谷 達史 「虫火」
2010年 キャンバス、油彩



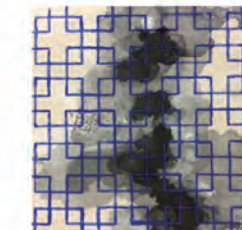
菊谷 達史 「サラマンダーさん」
2011年 キャンバス、油彩



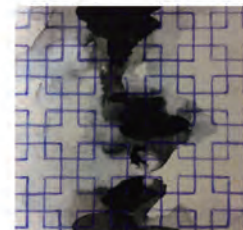
杉本 憲相 「無題」
2013年 麻紙、岩絵具、墨、アクリル板



杉本 憲相 「無題」
2013年 麻紙、岩絵具、墨、アクリル板



杉本 憲相 「無題」
2013年 麻紙、岩絵具、墨、アクリル板



杉本 憲相 「無題」
2013年 麻紙、岩絵具、墨、アクリル板



菊谷 達史 「隣人ブラック」
2010年 キャンバス、油彩



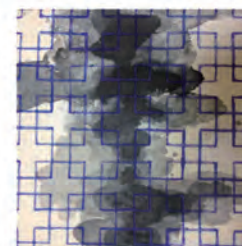
菊谷 達史 「白の烽火」
2011年 キャンバス、油彩、コラージュ



菊谷 達史 「GROUND POP」
2010年 コラージュ



佐合 道子 「招福亀甲飾」
2012年 磁土



杉本 憲相 「無題」
2013年 麻紙、岩絵具、墨、アクリル板



須山 千尋 「みのまわり1」
2013年 キャンバス、油彩



須山 千尋 「みのまわり2」
2013年 キャンバス、油彩



須山 千尋 「みのまわり3」
2013年 キャンバス、油彩



須山 千尋 「みのまわり4」
2013年 キャンバス、油彩



高岡 暁 「空想植物」
2012年 鉛筆・紙



高岡 暁 「空想植物」
2012年 鉛筆・紙



高岡 暁 「空想植物」
2012年 鉛筆・紙



中川 一樹 「bad qualia」
2013年 高知麻紙に膠、胡粉、岩絵具、
トレーシングペーパー



新山 さゆり 「少女 1」
2013年 パネル、紙



新山 さゆり 「少女 2」
2013年 パネル、紙



新山 さゆり 「少女 3」
2013年 パネル、紙



高岡 暁 「空想植物」
2012年 鉛筆・紙



高岡 暁 「空想植物」
2012年 鉛筆・紙



巽 静香 「無題」
2013年 和紙・岩絵具・箔・インク



巽 静香 「無題」
2013年 和紙・岩絵具・箔・インク



原田 昌典 「冬の記憶」
2013年 ミクストメディア



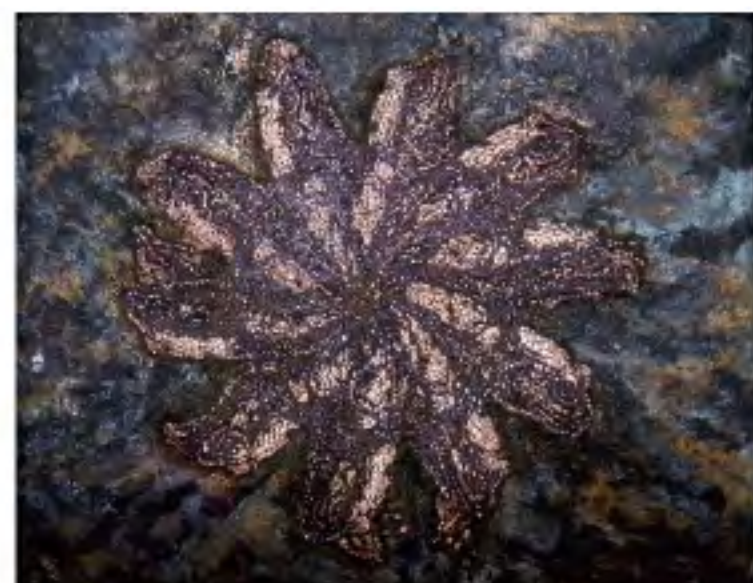
原田 昌典 「記憶の町」
2013年 ミクストメディア



原田 昌典 「遠い記憶の中」
2013年 ミクストメディア



原田 昌典 「光の中」
2013年 ミクストメディア



巽 静香 「無題」
2013年 和紙・岩絵具・箔・インク



巽 静香 「無題」
2013年 和紙・岩絵具・箔・インク



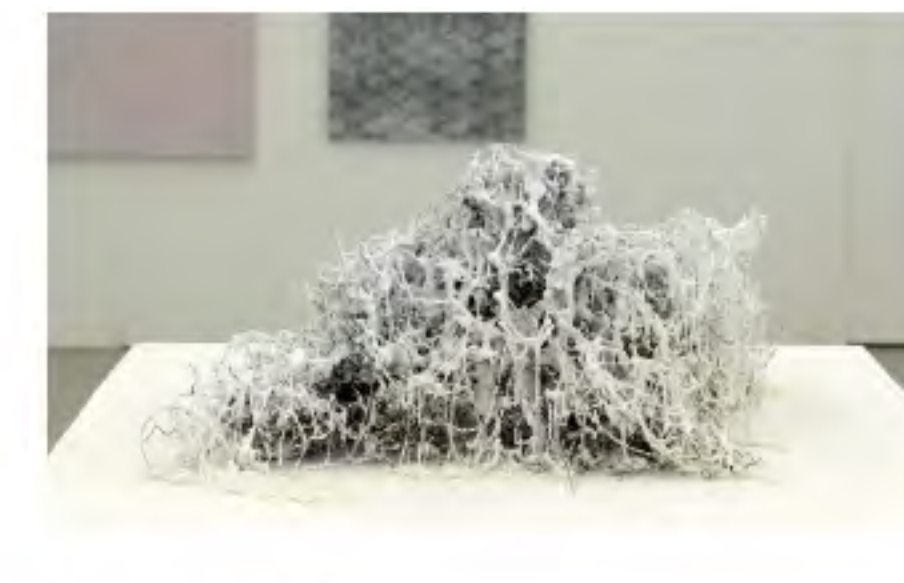
辰巳 昌子 「あの娘の居場所」
2013年 針金、岩絵具



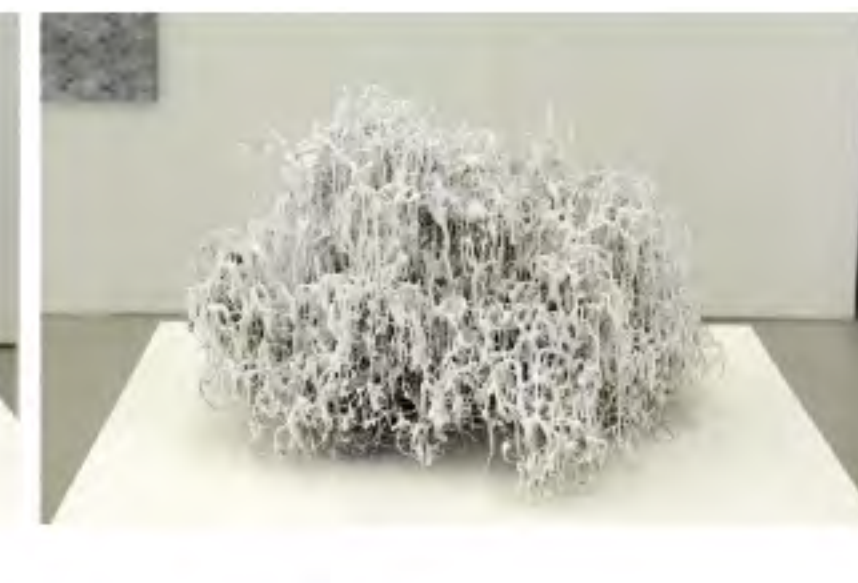
辰巳 昌子 「祭りのあと」
2013年 針金、岩絵具



原田 昌典 「彼方の光」
2013年 ミクストメディア



土方 大 「drop」
2013年 鉄に着彩



土方 大 「drop」
2013年 鉄に着彩



堀 至以 「diagram」
2012年 キャンバス、油彩



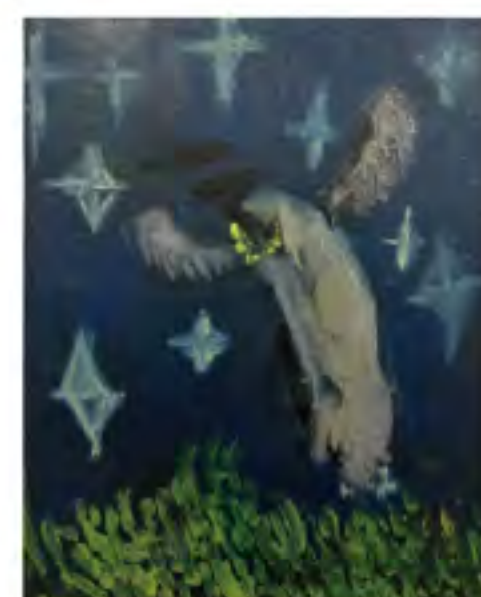
辰巳 昌子 「想われ人」
2013年 針金、岩絵具



田辺 紗友里 「Not bad」
2013年 合成うるし、オイルパステル、油彩、キャンバス



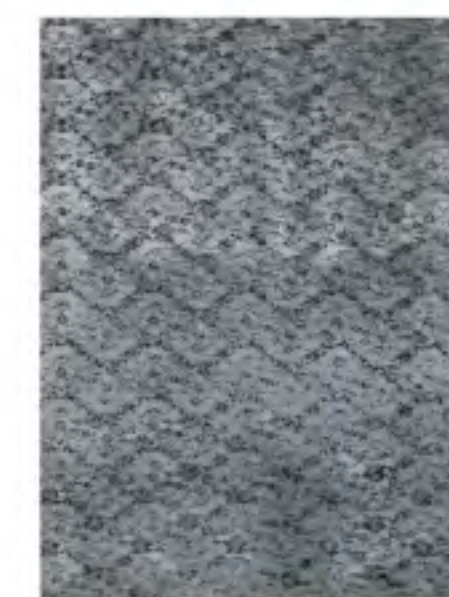
田辺 紗友里 「dragonfly」
2013年 油彩、キャンバス



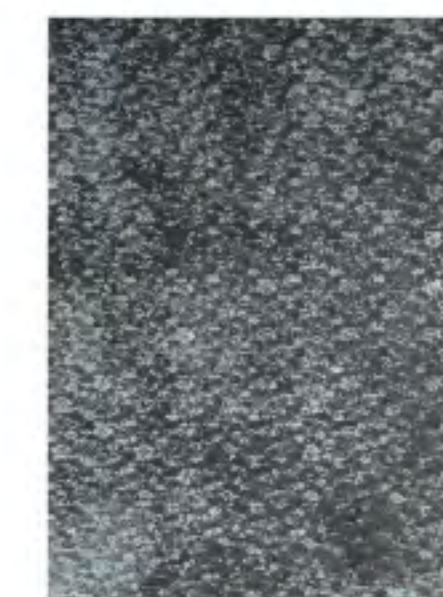
田辺 紗友里 「bone plant」
2013年 水彩、色鉛筆、紙



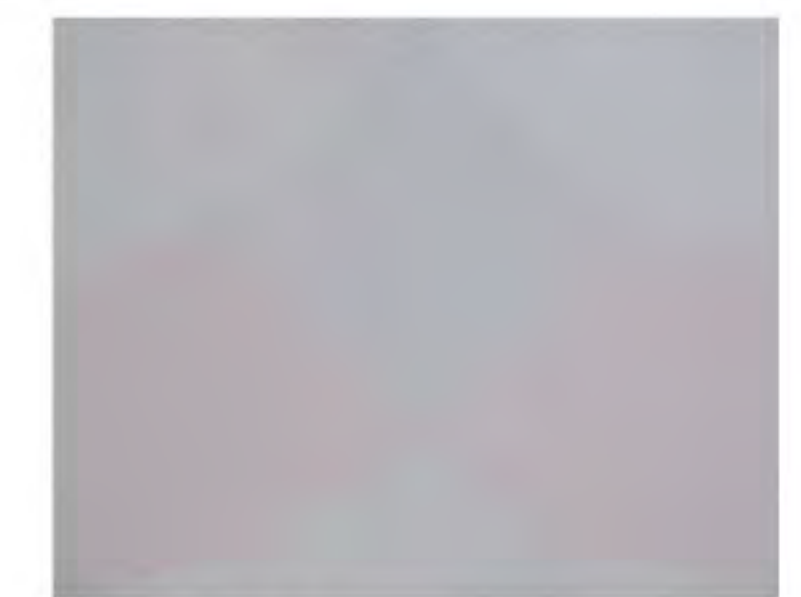
堀 至以 「diagram」
2012年 キャンバス、油彩



堀 至以 「blossom」
2012年 パネル、アクリル、ラッカー



堀 至以 「blossom」
2012年 パネル、アクリル、ラッカー



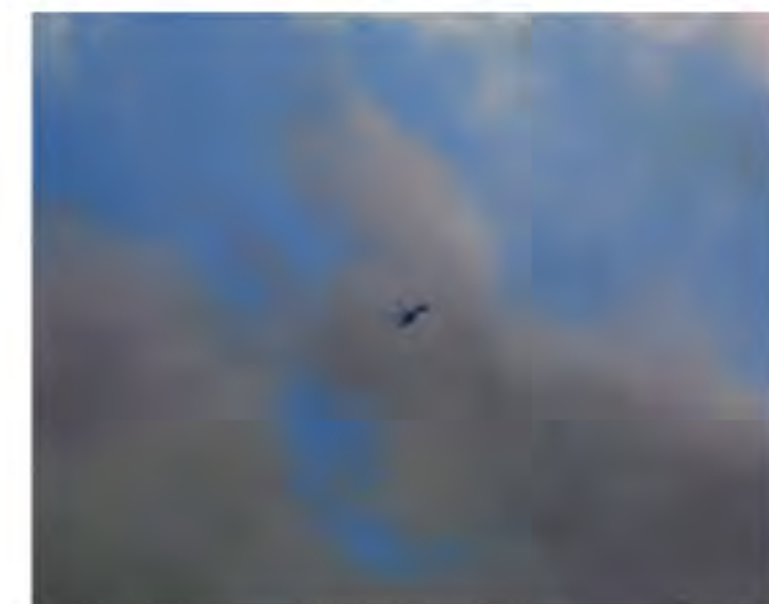
堀 至以 「テント」
2013年 キャンバス、油彩



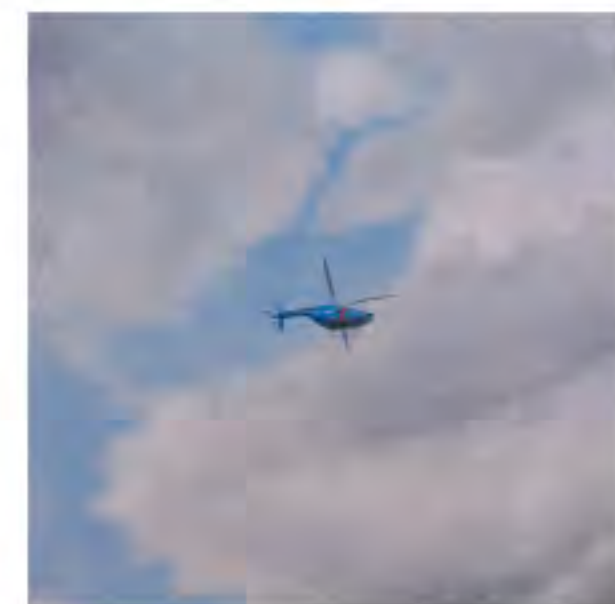
田辺 紗友里 「old sister」
2013年 合成うるし、油彩、キャンバス



中川 暁文 「Float in the air」
2013年 紙、ジェッソ、油彩



中川 暁文 「Float in the air」
2013年 キャンバス、油彩



中川 暁文 「Float in the air」
2013年 紙、ジェッソ、油彩



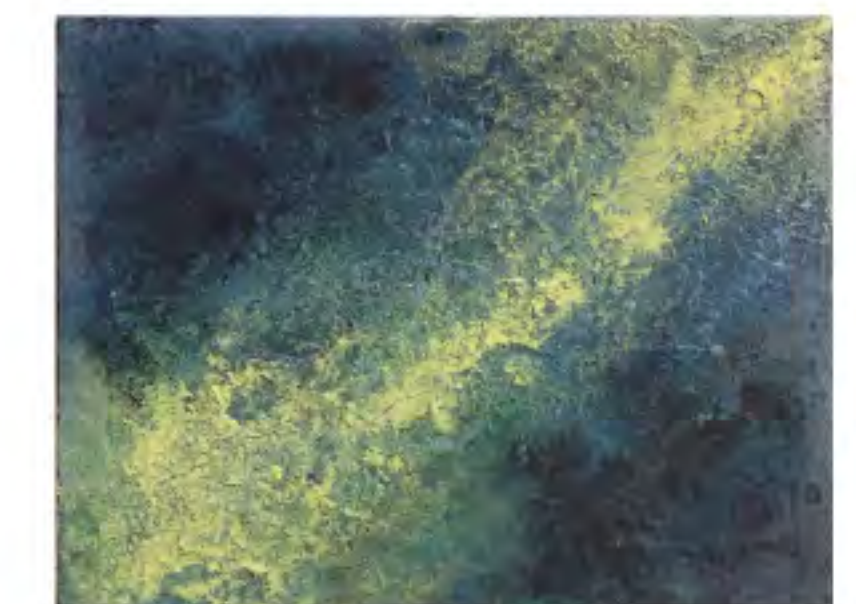
松本 慎吾 「無題I」
2013年 檜



山田 春歌 「きおくのふち」
2013年 墨、岩絵具、木炭



山田 春歌 「きろ」
2013年 水彩絵具、アルシュ紙



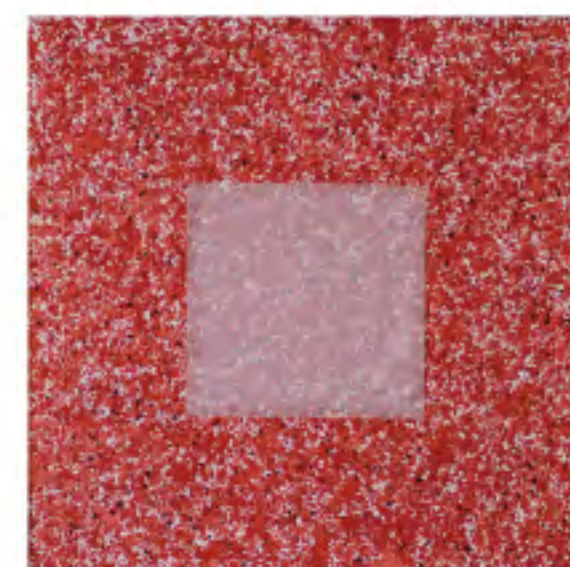
山田 春歌 「棲家」
2013年 岩絵具、アクリル絵具



中川 暁文 「ゆるやかな音楽」
2013年 紙、ジェッソ、油彩



中川 暁文 「よい家(空中分解)」
2013年 キャンバス、油彩



中川 一樹 「bad qualia」
2013年 高知麻紙に膠、胡粉、岩絵具、
トレーシングペーパー



中川 一樹 「bad qualia」
2013年 高知麻紙に膠、胡粉、岩絵具、
トレーシングペーパー



山田 春歌 「棲家」
2013年 岩絵具、アクリル絵具



山田 春歌 「棲家」
2013年 岩絵具、アクリル絵具



山中 亜衣 「無題」
2013年 アクリル絵具